

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	家庭基礎	2	1	クラス単位

使用教科書	副教材等
家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）	生活ハンドブック（第一学習社）

科目の目標
<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けるようにする。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。
評価方法	
定期テスト ワークシート（授業プリントではなく思考判断を問うもの） 作品 ポートフォリオ	

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	①	②	③
4	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	第1章 生涯を見通す・ライフステージ	ライフステージごとの課題、意思決定の重要性を理解する。 自立した生活を営むため、生涯を見通して自分の人生を考える力を身に付ける。	○		
		第2章 人生をつくる ・ライフプラン設計 ・家族の法律 ・ジェンダーと自分らしさ	家族に関する法律について、概要を理解する。 自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解する。他者の生き方を尊重する態度を身に付け、自分や家庭、地域の生活をより充実・向上させるための方法を考える。	○		
5	B 衣食住の生活の自立と設計	・労働について ・ワークライフバランス	自分の人生における価値観を自覚し、自分の人生をいかにして生きていくか考える。	○		○
		第6章 食生活を考え ・食生活の課題 ・栄養素 ・献立の立て方と調理	現代の食生活の現状と課題を理解する。生涯を見通した健康で安全な食生活を営む方法を理解する。 各栄養素の働きと食品群別摂取量のめやすを活用できる。	○		○
7	D ホームプロジェクトと学校	・これからの食生活	青年期の食事の重要性と各ライフステージの栄養的特徴を理解し、それを踏まえて、献立を作成する技能を身に付ける。献立作成を行い、実践を評価したり改善したりする。 基本的な調理技術を学び、自分で作ることの楽しさを感じとり、実践できる技能を身に付ける。	○		○
		第8章 住生活をつくる ・賃貸情報の読み取り	班員と協力し、安全に配慮して実習に取り組み、自分や家庭生活の充実・向上を図るために実践する意欲をもつ。 生涯を通し健康で安心・安全な食生活、持続可能な食生活についての課題解決に向けた活動について、考察したことを根拠に基づいて表現できる。	○		○
9	D ホームプロジェクトと学校	第7章 衣生活をつくる ・被服実習	平面図を読み取る技能を身に付ける。 賃貸契約を結ぶ際の注意点について理解する。 具体的な家族を設定し、ふさわしい住まいを選択し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。	○		○
		・持続可能な衣生活 ・被服の手入れ ・取り扱い表示 ・学校家庭クラブ活動	自分の将来を見据え、より良い住まいの選択について課題解決に向けて、活動を振り返って改善しようとする。 基礎縫いの技術を身に付け、丁寧に作品を仕上げられる。 作業の趣旨を理解し、作品の出来栄を客観的に評価できる。	○		○
11	C 持続可能な消費生活・環境	第9章 経済生活を営む ・悪質商法 ・購入と契約 ・奨学金の返済 ・投資 ・支払方法 ・ライフステージと支出	作業の趣旨を理解し、作業の到達度と自分の作業内容とを比較し、実践を評価したり改善したりすることができる。 持続可能な衣生活について、自分の衣服の購入や管理計画を考え、自分なりに工夫できる。 被服管理の方法を理解し、実践する技能を身に付ける。 被服実習で製作したポケットティッシュケースをプレゼントし、地域の子どもたちの衛生管理に役立てる。	○		○
		第3章 子どもと共に育つ ・子どもと関わる	自立した責任ある消費者として、現在の消費生活における意思決定の重要性について理解する。 生活情報を適切に収集・整理し、必要な情報を的確に活用し、悪質商法の被害を防ぐために考察したことを根拠に基づいて表現する。 自立した生活を営むために必要な家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性について理解する。	○		○
12	D ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト	生涯を見通したライフプランを立て、実現に向けた計画を考える。 今後の人生設計における家計管理の重要性について理解し、これまでの学習を踏まえ、自分や家庭生活の充実向上を図るための計画を立案する。	○		○
		第3章 子どもと共に育つ ・子どもと関わる	自分自身の日常生活の中から課題を見出し、家庭科で学んだ知識・技術を活用して課題を解決できる。 乳幼児の発育・発達の特徴について理解している。 子どもの心身の発達を促すための適切な関わり方を考える。	○		○
1	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	・子育て支援制度	具体的な場面を想定し、大人としてどのような対応をするべきか考えることができる。 子育て支援に関する地域・社会の役割について理解する。	○		○
		第4章 超高齢社会を共に生きる ・エイジフリー社会	様々な人と協働し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて、必要な手立てを考える。 高齢者を取り巻く社会環境について理解している。	○		○
2	D ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動	第5章 共に生き、共に支える	高齢期を支える社会の仕組みについて問題を見出して、課題を設定し、解決方法を考案する。 共に支えあう社会の実現に向けて、支援体制や支えあいの構造について理解し、生活支援に関する基礎的な技術を身に付ける。	○		○
		・ユニバーサルデザインとバリアフリー	共に暮らせる豊かな社会の実現に向けて、個人や社会はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか考える。 自分の人生における価値観を自覚し、自分の人生をいかにして生きていくか考え、まとめる。	○		○
3	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	第2章 人生をつくる ・ライフプラン設計	自分の人生における価値観を自覚し、自分の人生をいかにして生きていくか考え、まとめる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	フードデザイン	3	2	ライフデザイン系列

使用教科書	副教材等
フードデザイン（実教出版）	ビジュアルクッキング（教育図書）

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決するの力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
① 知識・技能	定期テスト、ワークシート、実技テストなどに基づき判断する。
② 思考・判断・表現	パフォーマンス課題、課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオ、実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	健康と食生活	第1章	食事の意義と役割について理解する。	○		
		食生活と健康	食生活の現状と課題を発見し、解決に向けて考察する。		○	○
		第2章	栄養と献立について理解する。	○		
		栄養素のはたらきと食事計画	現代の栄養と献立の課題を発見し、解決に向けて考察する。		○	○
		第3章	食品について理解する。	○		
	フードデザインの構成要素	食品の特徴・表示・安全	食品について課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察する。		○	○
		第4章	調理の基本について理解し、基本的な調理技術を身に付ける。	○		○
		調理の基本	調理上の課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察する。		○	○
		第5章	料理様式とテーブルコーディネートについて理解し、基本的な技術を身に付ける。	○		○
		料理様式とテーブルコーディネート	料理様式とテーブルコーディネートの課題を発見し、その解決に向けてよりよい豊かな食生活について考察する。		○	○
フードデザイン実習	第6章	食事のテーマに応じた献立を作成し、食材の選択と調理、テーブルコーディネートなど基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術が身につけている。	○		○	
	フードデザイン実習	食事計画について課題を発見し、その解決に向けて考察し、表現する。		○	○	
2	食育	第7章	食育の重要性を理解し、家庭や地域で食育活動を推進するための技術を身に付ける。	○		
		食育	家庭や地域における食育の推進について課題を発見し、その解決に向けて考察する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	ファッション造形基礎	3	2	ライフデザイン系列福祉専攻

使用教科書	副教材等
ファッション造形基礎	介護職員初任者研修課程テキスト3（こころとからだのしくみと生活支援技術）

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
①知識・技能	確認テスト、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	(1)被服の構成	衣服の構成	人体構造と被服の関係性、被服の構成による特徴の違いを理解する。	○		
			被服の構成方法による違いや動作とゆりみの関係性について理解する	○		
			立体構成と平面構成の特徴について理解する。	○		
5	(2)被服材料	衣服の素材	被服の構成について自ら学び、ファッションの造形に主体的に取り組んでいる。		○	○
9			被服を構成している繊維、糸及び布の代表的な種類について、それらの特徴と性能を理解する。	○		
10			被服を構成している繊維、糸及び布の代表的な種類について、実験・実習を通して科学的に理解し、関連する技術を身に付ける。	○		
10	(3)洋服製作の基礎	家事支援の技法（裁縫）	被服性能として、保健衛生的性能、外観、形態安定性、耐久性、風合いなどを考慮した被服材料の選択ができる。	○		
11		洋服の製作	介護における自立支援のための家事技術を身に付ける。	○		○
11		洋服の製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を身に付ける。	○		○	
12	1	洋服の製作	デザインについて、着用目的や季節、個性や好み、流行などを考慮して選択できる		○	○
12			作品の製作を通して、用布の見積もり、布地の裏表と布目方向の見分け方、布地に適した地直し、布地に適したしるし付けができるようになる	○		○
1			作品の製作を通して、布を身体各部の形や寸法に基づいて裁断後、縫合することによって立体化することを理解する	○		○
2	2	洋服の製作	作品の製作を通して、布地に適した糸と針を選択し、縫いしろの始末の方法や用具の適切な活用を身に付ける	○		○
2			製作過程で生じた残布などを利用して小物の製作をし、資源や環境に配慮した材料の扱い方について理解する	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	ファッション造形基礎	2	2	自由選択A群

使用教科書	副教材等
ファッション造形基礎	なし

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
①知識・技能	確認テスト、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	(1)被服の構成	衣服の構成	人体構造と被服の関係性、被服の構成による特徴の違いを理解する。	○		
			被服の構成方法による違いや動作とゆるみの関係について理解する。	○		
			立体構成と平面構成の特徴について理解する。	○		
5			被服の構成について自ら学び、ファッションの造形に主体的に取り組んでいる。	○		○
6						
9	(2)被服材料	衣服の素材	被服を構成している繊維、糸及び布の代表的な種類について、それらの特徴と性能を理解する。	○		
			被服を構成している繊維、糸及び布の代表的な種類について、実験・実習を通して科学的に理解し、関連する技術を身に付ける。	○		
			被服性能として、保健衛生的性能、外観、形態安定性、耐久性、風合いなどを考慮した被服材料の選択ができる。	○	○	
10	(3)洋服製作の基礎	洋服の製作	洋服の製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を身に付ける。	○		○
			デザインについて、着用目的や季節、個性や好み、流行などを考慮して選択できる		○	○
			平面上で型紙を作る平面製図を用いて、記号の意味を理解する	○		
1			作品の製作を通して、用布の見積もり、布地の裏表と布目方向の見分け方、布地に適した地直し、布地に適したしるし付けができるようになる	○		○
			作品の製作を通して、布を身体各部の形や寸法に基づいて裁断後、縫合することによって立体化することを理解する	○		○
			作品の製作を通して、布地に適した糸と針を選択し、縫いしろの始末の方法や用具の適切な活用を身に付ける	○		○
2			製作過程で生じた残布などを利用して小物の製作をし、資源や環境に配慮した材料の扱い方について理解する	○		○
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	フードデザイン	2	3	自由選択B群(福祉専攻)

使用教科書	副教材等
フードデザイン (実教出版)	ビジュアルクッキング (教育図書)

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決するの力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
① 知識・技能	定期テスト、ワークシート、実技テストなどに基づき判断する。
② 思考・判断・表現	パフォーマンス課題、課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオ、実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	健康と食生活	第1章	食事の意義と役割について理解する。	○		
		食生活と健康	食生活の現状と課題を発見し、解決に向けて考察する。		○	○
		第2章	栄養と献立について理解する。	○		
		栄養素のはたらきと食事計画	現代の栄養と献立の課題を発見し、解決に向けて考察する。		○	○
		第3章	食品の特徴と調理性について理解する。	○		
	フードデザインの構成要素	食品の特徴・表示・安全	食品について課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察する。		○	○
		第4章	調理の基本について理解し、基本的な調理技術と介護食の技術を身に付ける	○		○
		調理の基本	調理上の課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察する。		○	○
		第5章	料理様式とテーブルコーディネートについて理解し、基本的な技術を身に付ける。	○		○
		料理様式とテーブルコーディネート	行事食や郷土料理について学び、それに合わせたテーブルコーディネートを演出できる。		○	○
2	食育	第6章	食事のテーマに応じた献立を作成し、食材の選択と調理、テーブルコーディネートなど基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術が身につけている。	○		○
		フードデザイン実習	食事計画について課題を発見し、その解決に向けて考察し、表現する。		○	○
		第7章	食育の重要性を理解し、家庭や地域で食育活動を推進するための技術を身に付ける。	○		
		食育	家庭や地域における食育の推進について課題を発見し、その解決に向けて考察する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	保育基礎	2	2,3	ライフデザイン系列・自由選択F群

使用教科書	副教材等
保育基礎（実教出版）	なし

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
①知識・技能	定期テスト、保育技術検定、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオ、実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	(1) 子供の保育	子どもの保育	保育の意義と方法、保育の環境と役割について理解し、子供の心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察する。	○	○	○
	5	(2) 子供の発達	子どもの発達	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を理解する。	○	
11		(3) 子供の生活と養護	子どもの生活	乳幼児期の子供の健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察する。	○	○
	子供の生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身に付ける。			○		
12	(4) 子供の福祉	子どもの福祉	児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解する。	○		
			子供の福祉を支える保育所、認定こども園、児童相談所の役割について理解し、課題を発見して解決に向けて考察する。	○	○	○
2	(5) 子供の文化	子どもの文化	子供の文化、遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身に付ける。	○		
			児童文化財の製作を通して、適切な選び方や与え方を考察する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	課題研究	2	3	ライフデザイン系列(家庭専攻)

使用教科書	副教材等
なし	テーマによる

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生活産業の各分野について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法	
①知識・技能	学習活動における知識の定着および技能の修得、作品の進捗状況、実習記録の内容
②思考・判断・表現	学習活動における問題解決・判断、作品の進捗状況、実習記録の内容
③主体的に学習に取り組む態度	学習活動における主体的取組・実践的な態度の状況、作品の進捗状況、実習記録の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
	(1) 調査、研究、実践 (2) 作品製作 (3) 産業現場等における実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育分野 ・ 被服分野 ・ 食物分野 ・ 住居分野 ・ 環境分野 (5つの中から選択) 	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。	○		
			生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。		○	
			課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	保育実践	2	3	自由選択E群

使用教科書	副教材等

<p>家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を行うことを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成する。</p> <p>(1) 子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
② 思考・判断・表現	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決しようとしている
③ 主体的に学習に取り組む態度	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法	
①知識・技能	定期テスト、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	パフォーマンス課題、レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	(1) 子どもの表現活動と保育		保育における子どもの表現活動の意義と重要性を理解する。造形表現活動、言語表現活動、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動に関連する技術を身につけ、工夫することができる。	○		
5			造形表現活動の技術を活かし、紙だけでなく廃材を用いて壁面構成などの活動を行う。		○	
6			家庭科保育技術検定の造形表現技術、言語表現技術の3級を受験し、基礎的技術を身につける。	○		
7	(2) 子育て支援と保育		子どもと家族を取り巻く社会や環境の変化に伴って起こる諸問題について理解する。	○		
8			地域の子育て支援政策について理解し、関連する情報を収集・整理する。	○		
9			子育て支援の意義を役割について理解し、保育の場で行う保育者支援の基本的な姿勢を身につける。		○	
10			子育て支援について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫できる。			○
11			子育て支援と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	
12	(3) 保育の活動計画と実習		保育の活動計画の重要性について学び、子どもの発達や時期、また季節・年中行事に合わせて計画を立案できるようになる。	○	○	○
1						

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	家庭基礎演習	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
家庭基礎 自立・共生・創造	最新生活ハンドブック

<p>科目の目標</p> <p>科目「家庭基礎」の学びに基づき、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決に向けて様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、深く理解すると共にそれらに係る技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	家庭や地域社会における生活の諸課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

評価方法	
①知識・技能	定期テスト、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	パフォーマンス課題、レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	第1章、2章 ・ワークライフバランス	家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事家庭の両立や家庭と地域の結びつきについて学び、どのような社会を実現すればよいか考えて行動する。		○	○
5	B 衣食住の生活の自立と設計	第6章 ・生涯の健康を見通した食事計画	各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、健康に良い、栄養バランスの良い献立を作成できる。	○	○	
6		・食生活の文化と知恵 ・調理の基礎	郷土食や行事食の良いところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。	○		
7	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	第7章 ・持続可能な衣生活	被服管理の知識を身につけ、資源や環境の持続性を視野に入れた衣生活を創造する。	○	○	
8		・衣生活の文化と知恵	日本の衣文化を受け継ぐためにその工夫や技術について知り、民族衣装としての和服に興味をもつ。			○
9						
10		第4、5章、8章 ・共生生活を目指して ・高齢者の自立を支える ・これからの住生活	多様性を発揮して共に暮らす社会を目指すために、個人や地域がどのような役割を果たすか考える。 高齢者の自立を支えるために、適切な支援の方法や関わり方を考える。		○	
11			自助・互助・共助・公助に基づくまちづくりの担い手となるため、環境に配慮した住生活について理解する。			
12		第3章 ・子どもの生活と保育 ・これからの保育環境	子どもの生活習慣や衣食住について理解し、子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えることができる。 社会全体で子育て支援していくために、子育て環境の変化や課題について理解する。		○	
1	C 持続可能な消費生活・環境	第9章 ・家計資産をマネジメントする 第10章 ・持続可能な社会を目指して	安定した経済生活を営むために、リスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて 地球全体で起こっている様々な問題に対して理解を深め、自分たちの暮らし方にその責任があることを自覚する。また、生活者として何ができるか考える。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	服飾手芸	3	3	ライフデザイン系列(家庭専攻)

使用教科書	副教材等
一生使えるおさいほうの基本	

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 手芸の美的価値及び制作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	手芸の美的価値及び制作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法	
① 知識・技能	実技テスト、作品、定期テスト、ワークシートなどに基づき判断する。
② 思考・判断・表現	作品、定期テスト、課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオ、実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	手芸の種類と特徴	1章 おさいほうの基礎	手芸の種類と特徴について理解する	○		
4	手芸の変遷		手芸の変遷について理解する	○		
			手芸が発達した背景、時代、風土、社会の特徴と手芸技法との関係について理解する	○		
5	各種手芸の技法		手芸作品に必要な基礎縫いの技術を身に付ける	○		○
6			作品製作（パッチワーク）を通してその種類や特徴、材料と用具、デザイン、仕上げの方法を理解する	○	○	○
7		2章 てぬい	作品製作（刺し子）を通してその種類や特徴、材料と用具、デザイン、基本的な刺し方の技法、仕上げの方法を理解する	○	○	○
9		3章 刺しゅう	作品製作（フランス刺繍）を通してその種類や特徴、材料と用具、デザイン、基本的な刺し方の技法、仕上げの方法を理解する	○	○	○
10		4章 ミシン縫い	作品製作（ぬいぐるみ）を通してその種類や特徴、材料と用具、デザイン、立体にする時の注意、仕上げの方法を理解する	○	○	○
			作品製作（編み物）を通してその種類や特徴、材料と用具、デザイン、サイズの取り方、仕上げの方法を理解する	○	○	○
11	手芸品の製作		今まで身に付けた各種手芸技法を生かして、日常生活に役立つ作品への活用ができる	○		○
12		5章 暮らしの中のおさいほう	今まで身に付けた各種手芸技法を生かして、生活にうるおいを与えるような服飾作品への活用ができる	○		○
1			美的価値が高い作品及び合理的な作品製作のための課題を発見し、その解決に向けて考察したり、表現できる		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	食文化	3	3	ライフデザイン系列選択

使用教科書	副教材等

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	
①知識・技能	定期テスト、ワークシート、製作物などに基づき判断する。
②思考・判断・表現	パフォーマンス課題、課題、実習レポートなどに基づき判断する。
③主体的に学習に取り組む態度	ポートフォリオ、実習の振り返りなどに基づき判断する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	(1) 食文化の成り立ち		食文化の成り立ちについて理解し、気候や風土、宗教、習慣との関りや食文化を取り巻く現状と課題を発見し、解決に向けて考察する。	○	○	
5	(2) 日本の食文化		日本の食文化の変遷や料理様式を理解し、関連する技術を身につける。	○		
6			伝統的な行事に伴う料理や食材料の由来や託された意味について学び、実習を通して祝い方を体験的に習得する。	○		○
7			郷土料理と地域の風土との関りについて調べ、地方の特色を理解する。	○	○	
8			本膳料理、懐石料理などの様式について学び、基本的な食事作法を理解する。	○		
9						
10	(3) 世界の食文化		世界の主な食文化圏とその料理の特徴について理解し、関連する技術を身につける。	○		
11			世界の食文化に興味を持ち、伝統的な料理の歴史や食物禁忌、各国特有の食事のマナーを理解する。	○		
12	(4) 食文化の伝統と創造		これまでの伝統を踏まえた上で、時代に即応した食文化を受け入れ、さらに新たな食文化を創造し、次世代につないでいくことの意義と立場を認識する。	○		○
1	(5) 食文化と食育					
2						